



「地域に育まれながら」

志賀 教子

新年度が始まって一か月が経ち、各クラス懇談会のほとんどが第1回目を終えました。

アトム懇談会では、子どもの話もちろん大事にしますが、大人のことをテーマに話す事も多くあります。お互いの理解を深め、肩肘はらない関係性をつくるのが、よその子も自分の子も『みんなの大切な子ども』として一緒に育てていくためには大切だと思っているからです。保育士と保護者同士が話しをすることで、お互いの事を知り、悩みを共有し、子ども理解を深める場であると同時に、大人同士も様々な価値観がある事に気づいたり、お互いにその人となりを知れたり、共感しあえたりします。本音の話しあいでは楽しく笑いあうこともあれば、時には涙することもあります。大人同士も子ども達と同じ様に、自己表現しながら安心できる関係になってほしいと思っていますし、子ども達にはそんな大人の正直な関係性を見ながら育ってほしいと願っています。

3月末に、京都府丹後市の小学校5年生男子が行方不明になり、義理の父に死体を遺棄されるという痛ましい事件が起こりました。連日流れてくるニュースを見て、アトムでも「他人ごとではない」「心痛めた」と自分自身に重ねて複雑な思いを漏らしにきた保護者が何人かいましたが、私たち職員も、「この家族は地域の中でどんなつながりがあったのだろうか」「学校の先生もきっと彼を救えなかったことで苦しんでるよね」と、毎日のように話さずにはいられませんでした。やはり他人事とは思えないのです。小学生の命が奪われた事件に家族が関与しているというやりきれなさ。心の奥にある苦しさ。深いほど、誰も負の渦におい詰められることがあるのだという怖さと同時に、もし、本当に苦しいとき、辛いとき近くに話せる人がいたら救える命もあったのではないかという、切実なやりきれなさも募ります。

アトム子どもたちは、日頃から家族や保育士だけでなく、地域の皆さんに支えられて日々を暮らしています。散歩であぜ道を歩くことも畑の中に入れてもらうことも私道に入ることも、あたりまえではなくなってしまった世の中で、子どもたちは私有地の竹やぶで遊ばせてもらったり、タケノコを掘らせてもらったり、ひよこやニワトリを見せてもらったりと、豊かな体験をたくさん地域の方々からさせてもらっています。

一方で子どもたちも地域のおじいちゃんおばあちゃんを元気にしています。実際「散歩している子らが、おばちゃんかわいいなあって言うてくれたんや」「子どもらの声聞いてたら元気がでる」など温かい言葉をかけてもらうことも少なくありません。子どもたちが地域のおじいちゃんおばあちゃんと世代を超えておしゃべりをしたり、野菜の収穫をさせてもらったり、園の行事でもたくさんの地域の方が子どもたちを見守りかわってくださっているこんな毎日を、改めて感謝せずにはいられません。新たにアトムの保護者になった皆さんにも、園にも地域にも多くの子育て応援団がいることを知ってほしい、ひとりぼっちで悩まず、お互いを支え合う、子育てなかまになれるようにしていきたい、そんな思いをまた強くする4月でした。

【お 誘 い】

5月17日(日)に煉瓦館でふれあい交流会があります。南小学校校区福祉委員会主催の交流会です。昨年度初めてアトムさんも参加しませんか？とお誘いしてもらい、お手伝いに行ったのですが、逆に地域の高齢の方々の元気さとパワーに圧倒され、たくさん楽しませてもらいました。昨年度は5歳児の子どもたちと職員でサザエさんダンスをしたり、卒園した親子と一緒にベリーグットマンの「雑草」を歌ったり、山本知輝保育士がマジックショーをさせてもらったりしました。今年は、子どもたちが南中ソーランを踊り、昨年一番盛り上がった山本知輝保育士のマジックショーも再び予定しています。煉瓦館の中庭では食べ物の販売もあるそうです。地域の人たちと楽しみながら、日頃の感謝も伝えられる交流会です。是非皆さん参加しに来て下さいね。